

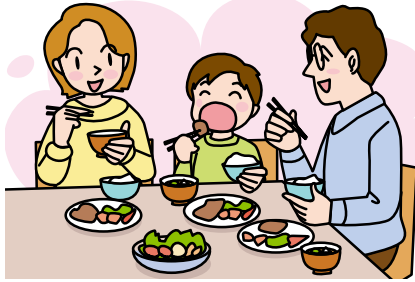
悩まなくてもだいじょうぶ



知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子

イラスト／清水真子



第 38 回

食物アレルギー

診断の基本は「食物負荷試験」

血液検査の結果は

あくまでも目安

食物アレルギーを血液検査の結果だけで診断され、多品目の除去を指導されているお子さんにしばしば出会います。診断は食物と症状の因果関係が明らかで再現性がある、あるいは「食物負荷試験」といって、医師の前で実際に少量を食べてみて症状が出ることで確認されることが必要で、血液検査の結果はあくまで参考でしかないとされています。

ある男の子が生後7カ月のとき、グラタンのホワイトソースで重篤なアナフィラキシーショックを起こしました。血液検査の結果、牛乳、卵、大豆、小麦、セラチンが陽性で、食物除去を始めました。以後、半年ご

との血液検査で数値が出た食品はすべて除去を指導され、牛乳、卵に反応するので、その親である牛肉、鶏肉、同じ卵の魚卵も除去、そば、そば、ごま、えび、かにも、医師から「怪しいから」と除去を指導され、除去品目は際限なく増えていきました。追い詰められたお母さんは、「こんな生活やっていけない」と主治医に相談したところ、「医師を信じるか信じないかは宗教と同じ」と言われて愕然とし、その医師から離れました。

その後、必死になって探したた専門医は「血液検査結果はあくまで目安。負荷試験で本当に何が食べられないか整理しましょう」と、時間をかけて、医師がそばにつきまきりて負荷試験を行ないました。その結果



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

確かに牛乳は微量でも症状が出ましたが、卵の卵白はためでも卵黄は食べられました。「牛肉も大丈夫」「鶏肉も大丈夫」と、どんどん食べられるものが広がったのです。不安が減ったことで家庭も明るくなり、生活にゆとりが生まれました。男の子は今、大好きな野球で甲子園をめざして大活躍しています。

少し遠くても

専門医を受診しよう

残念ながら食物アレルギーの適切な診断がどこでも行なわれているわけではなく、負荷試験を行なえる病院も多くはありません。「母の会」は患者も賢く適切な医療を知り、少し遠くても、アレルギーに精通した専門医を受診しようと話しています。